

ローカルサミット・日本海学連携シンポジウム

- ・趣旨 第4回ローカルサミット in 南砺での日本海学の普及を図る。
- ・日時 平成23年9月25日（日）9：00～10：00
- ・会場 南砺市じょうはな座
- ・テーマ 逆さ地図から見えてくるもの～森里海連環、アジア連携の意義～
- ・概要
 - 司会 丹保 裕（県生涯学習カレッジ 砺波地区センター副所長）
 - パネリスト 中井徳太郎（環境省総合環境政策局総務課長）
北野 孝一（富山国際大学現代社会学部長）
王 禹浪（大連大学中国東北史研究センター主任・教授）
- ・参加者 180名



各パネリストの発言要旨

<中井氏>

- ・富山に赴任し、日本海が大きな湖であり日本と大陸がつながっているように見える「逆さ地図」との出会いから、生命の源である海とのかかわりを軸として、新たな文明を模索する日本海学を提唱することとなった。
- ・環日本海地域は日本海の水の循環に支えられ、世界の中でも森に囲まれた場所が多く、人間も自然も、いろいろな役割を果たしながら共生している。

- ・リーマンショック以後、資本主義経済の根本的なあり方が問われているという認識が大事である。また西欧近代文明の大量生産・大量消費の経済や効率性至上主義といった人間中心の価値観から、全てのものに命が宿り、人間も自然の一部であるという先祖伝来的な価値観に立ち戻る必要がある。
- ・森里海の連環や循環、共生といった日本海学的な考え方を、アジアの人々と一緒に問題解決に取り組むなかで、広げていく必要がある。

<北野氏>

- ・富山国際大学は「共存・共生の精神」をベースに、国際社会・地域社会の発展を担う人材育成に努めてきた。また、キャンパス内での学生、NPO、企業が協働しての森林保全活動や海外森林ボランティアへの参加にも取り組んでいる
- ・富山国際大学と黒竜江省鶴崗師範高等専科学校と学術交流協定を締結することとなり、王教授を学術顧問とする代表団が来県し、ローカルサミットに参加いただいた。
- ・今回の教育及び学術協力により、中国東北地方の自然豊かな地域環境、調和のとれた地域づくりのため貢献できるものと大きな期待を抱いており、富山国際大学が目的とする「北東アジアの交流拠点」の重要な一角を担うことができると確信している。

<王氏>

- ・ローカルサミットに参加し、多くの方々の熱心な議論に感動している。
- ・日本海を取り巻く環日本海地域において、原発立地の現状を認識する必要がある。
- ・逆さ地図に見られるように私達は非常に近い関係にあり、皆様との友好を大切にして、市民レベルでの平和を築いていきたい。